

明治維新150年記念

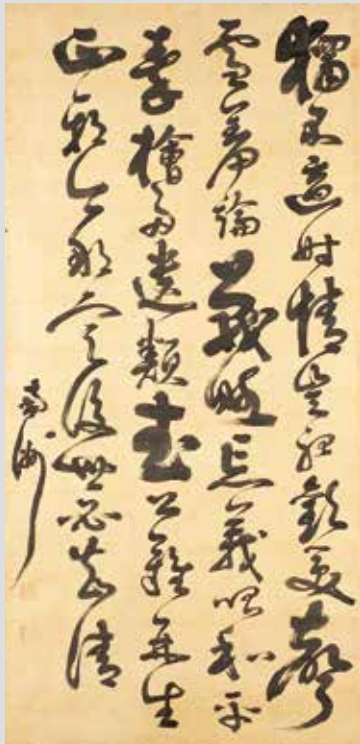
岩崎美術館収蔵品からみる

西郷隆盛と 新収蔵品展

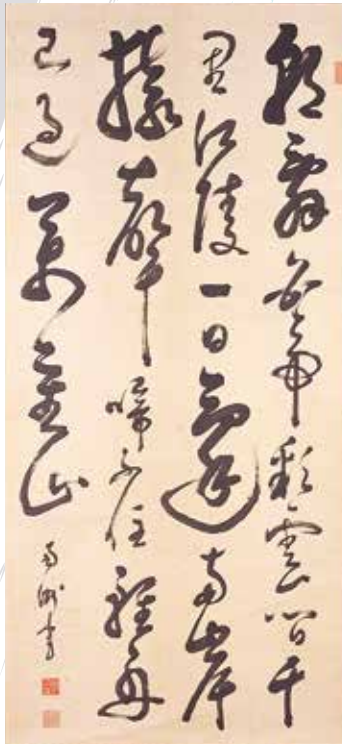
2018年は明治維新から150年の年となります。これを機に、当館では維新の立役者で郷土の絶大なる人気を誇る西郷隆盛の作品、及び西郷隆盛ゆかりの作品を収蔵品のなかから選んで展示します。

西郷隆盛の書や詩は高い評価を得ており、西郷の人間性を知ろうとて大きな手がかりとなっています。西郷作品のほかには、西郷の永遠のライバルだった大久保利通や、西郷を尊敬してやまなかった東郷平八郎など、明治の時代に活躍した政財界人の墨書も展示します。

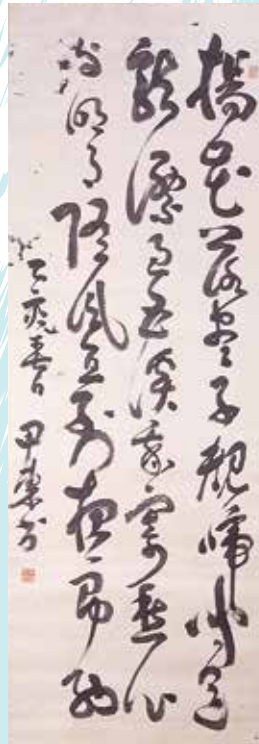
「書は人をあらわす」と言われますが、果たして西郷隆盛は維新の功労者だったのか、あるいは逆賊であったのか、改めてこの企画展を通して西郷のひととなりを感じとってみてはいかがでしょうか。



西郷隆盛「辞闕」



西郷隆盛「早発白帝城」



大久保利通「聞王昌齡左遷龍標尉遙有此寄」



東郷平八郎「一志如鐵」



黒田清輝作「樺山資紀の像」(1896)

維新150年の企画展と同時に、2017年新収蔵品を公開いたします。

樺山資紀(1837~1922)は西郷・大久保らを輩出した鹿児島城下加治屋町出身。はじめ陸軍に入り、海軍に転じて海軍大将となります。初代台湾総督、藩閩政治家として内務大臣、文部大臣などを歴任。西南戦争のおりには熊本鎮台参謀長として西郷軍を撃退しました。

黒田清輝(1866~1924)は樺山とは親戚筋で1896年8月、樺山の大磯の別荘に肖像画を描きに行ったことが黒田の日記に残されています。描かれた樺山は軍服ではなく寛いだ浴衣姿で、黒田独特の柔らかな光に包まれた明るい雰囲気の中、樺山の穏やかな表情が捉えられています。

財団法人 岩崎美術館・工芸館 常設展示案内

工芸館

パプア・ニューギニアの民族美術品、里帰り薩摩焼や現代の焼物などを展示しています。



常設作家

- 黒田 清輝
- 藤島 武二
- 東郷 青見
- 海老原 喜之助
- 他

